

スイカ



育苗

25～30日

床土(培土) → ●畑の大将<青> 3%ほどを培土に混和しておくか、1ポット当り20g程を置き肥すると、徒長せずガッシリ充実した苗ができる。

散水時に散布 → ●根っ酵素500倍液 → 根を強く動かし、導管を強くし、生長を促進。
(葉面散布・灌水) ●花咲くCa液500倍 → 茎葉を厚く充実させ、健全な体質を作る。

※台木の鉢上げ(移植)後、穂木の発芽後に(必ず両方同時に)、酵素液・Ca液を各1000倍、4日間隔で順次散布すると、茎が太く充実し、接木が楽になる。
※接木4日後から4～5日間隔で、最初だけ1000倍、以後500倍で交互に、葉上からタツプリー散布する。(ただし苗の状態によっては適宜どちらかを散布する) → 根と導管が強く、厚く充実した苗が作れる。
※定植4日前には、苗の仕上げに、Ca液を散布して充実させる。

(10アール当たり)

時期	方法	資材と施用法
本畑の地力作り	なるべく早めに全面に投入して、耕耘する(土壤全体に肥料分が行き渡るように)	<ul style="list-style-type: none"> ●ラクトバチルス600g → 保水性よく、深く根が伸びやすい土を作る。 ●堆厩肥1トン～2トン(有機物がなければ米ヌカ150kg以上) ※堆厩肥の量が少ない場合は複合肥料を施す。(各成分12kg) ●硫安60kg (もし複合肥料ならN成分:12kg程度・・・追肥をする場合) ※チッソは有機化し、緩効的に効く。チッソを増やした場合にも、植付け時には土壤EC:0.2以下に下るので、トンネル・マルチ栽培など、追肥をしない(少ない)場合は、硫安100kg(N:20kg)を施す。 ※カルテック農法では原則的に、土壤全層・均一に堆厩肥や肥料分を混ぜ込んで、局所施用や待ち肥のような肥料ムラ・生長のムラを無くす。このため肥料が薄まるので、硫安100kgで少追肥を推奨。
本畑の整地時	整地・ウネ作り時に全面散布(畑土全面またはウネの全面に、均等に散布し、なるべく土に混る。ただしマンゾク粒状のみは株傍に撒いても可)	<ul style="list-style-type: none"> ●畑の大将<青> 60kg ※土壤pH:6.5以上と高い場合は畑の大将<赤>を施す。 ※チッソ多肥の場合は、カルシウムも80～100kgと、多くする。 ※カルシウムは開花・着果・果実品質を決定するので、多めにする事。 ●マンゾク粒状50kg → 根張り・生長・肥大の促進、ネコブ線虫・ツル割れ・急性萎凋病の予防。 ※もし特に心配な畑で農薬の土壤消毒をした場合は、毒性が抜けた後に米ヌカ等に混ぜて、ラクトバチルスを補う事。(同時施用可能)

(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
定植時	苗のドブ漬け・ 定植前後の灌水 ※以降は状態により 適宜繰返し	●根っ酵素2～5ℓを灌水(希釈倍率は500倍程度で適宜) →活着・深層への根張り促進。 (N成分少なく、上根でなく深い根を張らせる) ネコブ線虫・ツル割れ・萎凋病の解消。茎の地際も強化され、 ツル枯れも軽減。 ※定植前後の灌水でタップリと深く湿らせ、その後、初期は灌水 回数は少なめに。 ※生長を促進し、ツル先を持上げ、シオレを防ぐには、7～15日 間隔で葉面散布。
開花・着果前	着果前のカルシウム ※以降も繰返し	●花咲くCa液500倍を葉面散布、または2ℓを灌水 ※親ツルの5～6節目から各節に雄花が着き、6～7節目以降 数節(5～10節)ごとに雌花が着く。もしも雌花が着かない、 または落花するほど軟弱な場合や、雄花が少なくて雌花の 先のツルが長く強すぎ、節間が長いチッソ過多の場合は、 急いでカルシウムを与えて、健全な体質に戻す。(原則とし て追肥不要) ※着果させたい節位(18節)の開花前(前節の開花期)には、 必ずカルシウムを与えて、着果と果実形成を促す。(良いス イカを作る基本)
果実肥大期	着果後～ ※以降、半月間隔	●根っ酵素500倍液を葉面散布、または2ℓを灌水 →着果後ただちに(ピンポン玉大までに)、果実の初期肥大と 草勢維持・萎凋予防。
追肥★	果実が茶碗大の頃、 N・Ca同時施用 (混ぜて時間をおかない)	●硫安20kgまたはアミノ酸液10ℓ 灌水を半月間隔2～3回。 ●畑の大将〈青〉20kg ※土壌pH:6.5以上と高い場合は田畑の大将〈赤〉を施す。 ※多雨の時はトンネル外にも。
仕上げ	収穫10～7日前	●花咲くCa液500倍を葉面散布 →糖度・旨味の増加。

酵素液・Ca液で草勢を調節し、2番果・3番果も同様に行います。★追肥はツル先より遠くに散布

徒長をさせないので、
ツルぼけせず強い花を
咲かせる。

収穫期にはしっかりと甘く、
シャリシャリ感のあるスイカが
穫れる。